

ANAホールディングス株式会社

2016年3月期 第2四半期 決算説明会

代表取締役社長
片野坂 真哉

取締役 執行役員
平子 裕志

2015年10月28日



目次

【第1部】

. 2015年度 第2四半期決算(概要)

2015年度 第2四半期決算概要	P. 4
国際線事業における新規路線の状況	P. 5
グループ事業の状況	P. 6
次期経営戦略に向けて	P. 7 - 9

. 補足資料

運用航空機数	P. 36
国際旅客 方面別実績(構成比)	P. 37
国際貨物 方面別実績(構成比)	P. 38

【第2部】

. 2015年度 第2四半期決算(詳細)

業績ハイライト	P. 14
連結決算概要	
経営成績	P. 15
財政状態	P. 16
キャッシュフロー	P. 17
セグメント別実績	P. 18
航空事業	
収入・費用	P. 19
営業利益増減要因	P. 20
国内旅客事業	P. 21 - 22
国際旅客事業	P. 23 - 26
国内貨物事業	P. 27
国際貨物事業	P. 28 - 30
LCC事業	P. 31
航空事業以外のセグメント	P. 32
燃油・為替ヘッジの進捗状況	P. 33

【第1部】

I. 2015年度 第2四半期 決算(概要)



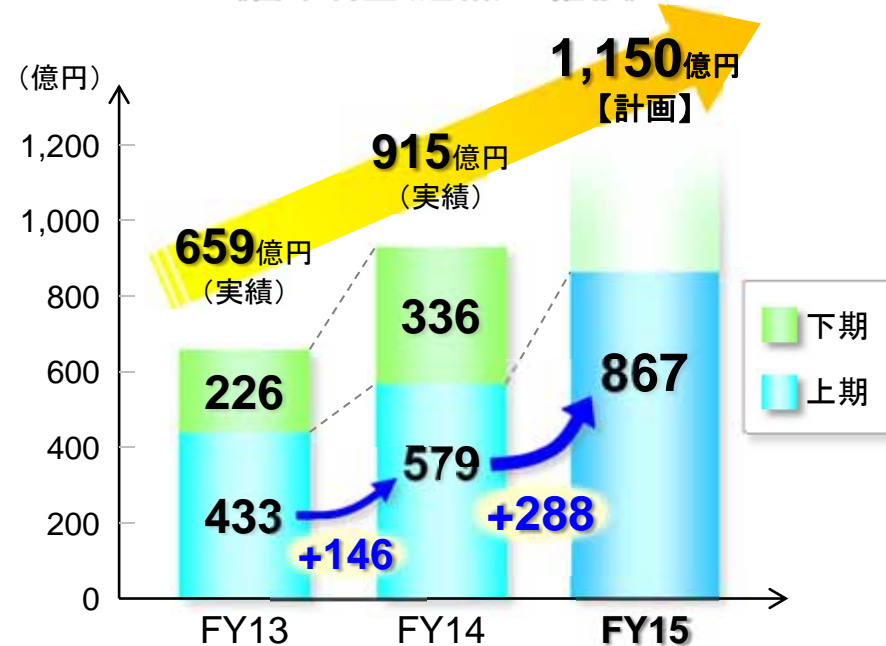
2015年度 第2四半期 決算概要

航空事業を中心に大幅な増収を達成、グループ収益力を着実に向上

《2015年度 第2四半期 決算(連結)》

(億円)	第2四半期 (累計)	前年差	前年比
売上高	9,112	+ 564	+ 6.6%
航空事業	7,880	+ 458	+ 6.2%
営業利益	867	+ 288	+ 49.8%
航空事業	811	+ 293	+ 56.5%
営業利益率	9.5%	+ 2.7%	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	539	+ 182	+ 50.9%
EBITDA	1,538	+ 311	+ 25.3%

《営業利益(連結)の推移》



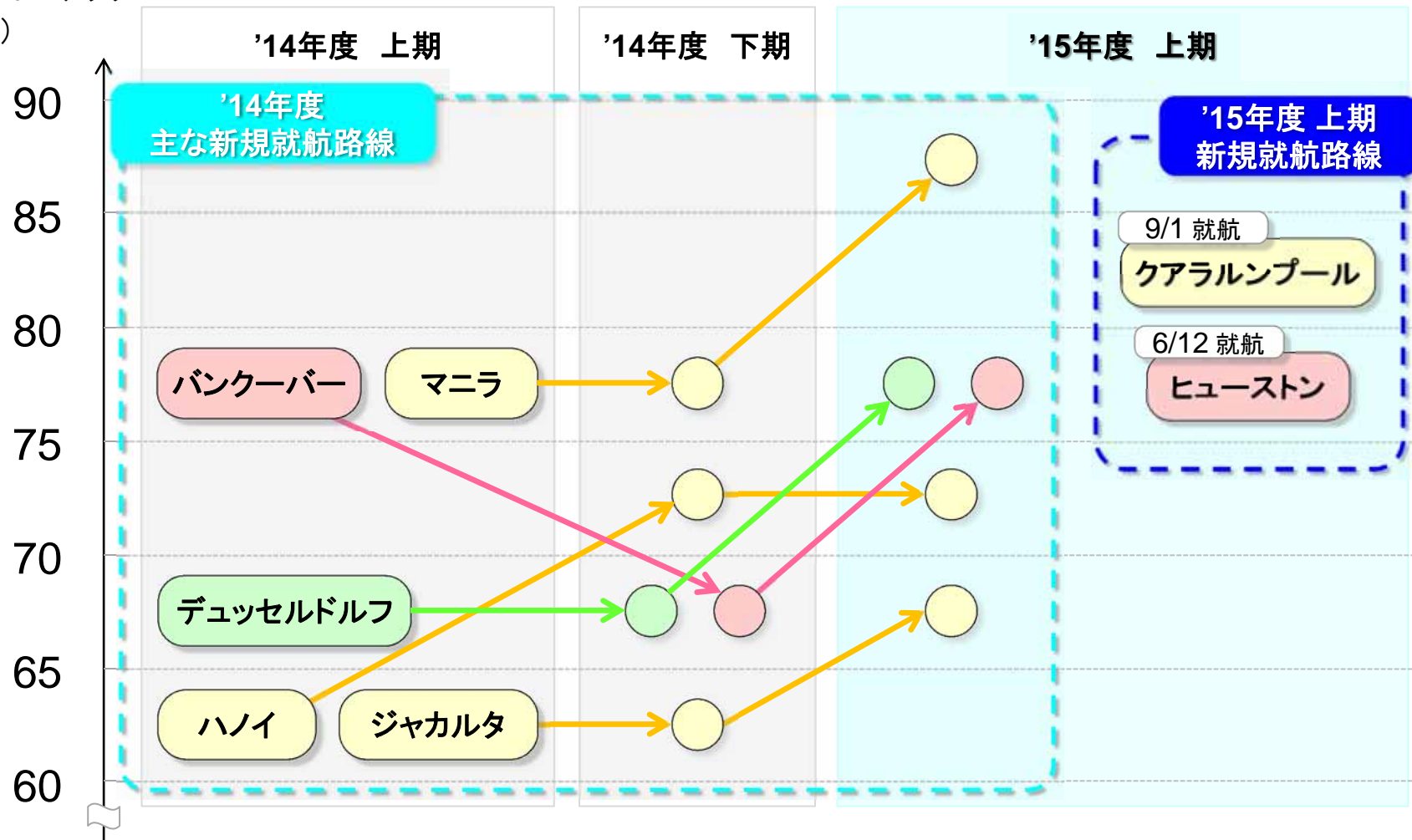
第2四半期決算
(ポイント)

- 過去最高の売上高
 - (航空事業) 国際線旅客事業が堅調に推移
 - (商社事業) 訪日客の旺盛な消費需要を取り込み
- 過去最高の営業利益
 - 国際線事業を拡大する過程で費用増加を抑制

国際線事業における新規路線の状況

今年度上期に就航した新規路線は、好調な滑り出し

ロードファクター
(%)



(備考) ・無償旅客を含む
 ・マニラ線およびジャカルタ線は羽田と成田の合計

グループ事業の状況

国際線事業を成長ドライバーとして、事業ポートフォリオ戦略を着実に推進

		上期の状況	下期の主な取り組み
航空事業	国際旅客	<ul style="list-style-type: none"> ・羽田国際線ネットワークが市場に定着 ・成田発着路線の拡大を推進 <p style="text-align: center; background-color: #e0f2f1;">首都圏空港での競争優位性を向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏デュアルハブ機能の確立 <p style="text-align: center; background-color: #0070c0; color: white;">需要層を拡大しながら成長戦略を推進</p>
	国内旅客	<ul style="list-style-type: none"> ・「需給適合」の継続 <p style="text-align: center; background-color: #e0f2f1;">生産量を抑制しながら増収を達成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ピタッとフリート」の導入開始 ・スカイマーク社との提携を加速 <p style="text-align: center; background-color: #0070c0; color: white;">中・長期的に安定した収益基盤を確立</p>
	LCC事業	<ul style="list-style-type: none"> ・国内／海外マーケットで需要が定着 <p style="text-align: center; background-color: #e0f2f1;">年度黒字化の達成に目途</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレジャー需要／訪日客を安定した収益源に <p style="text-align: center; background-color: #0070c0; color: white;">今後の就航路線・便数の拡大を検討</p>
ノンエア事業	航空関連	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機整備の専門会社を設立(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空事業とのシナジー効果を発揮 ・訪日需要をグループ収益源として取り込み ・アジアを中心としたエアライン需要を獲得 <p style="text-align: center; background-color: #0070c0; color: white;">グループ収益源の育成・拡大を継続</p>
	旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・訪日旅行の新会社が事業開始(4月) 	
	商社	<ul style="list-style-type: none"> ・全カンパニーで増収増益を達成 	

次期経営戦略に向けて

2020年に経営ビジョンを達成、「お客様満足」と「価値創造」で世界のトップ水準を目指す

次期経営戦略で目指すもの

世界のリーディングエアライングループ

1. グローバルプレゼンスの向上
2. 社会の発展に寄与
 - ・環境問題への対応
 - ・観光立国、地方創生への貢献

長期戦略構想（～2025年度）'15.1.30発表

'16～20年度
次期経営戦略

1. エアライン事業領域の拡大
 2. 新規事業の創造と
既存事業の成長加速
- 攻めのスピード経営の実践

経営ビジョン達成

成長戦略の加速

成長戦略の推進

経営基盤の強化

'14～16年度
中期経営戦略
(現在)

1. 収益基盤の強化・発展
2. 収益ドメインの拡大・多様化
3. 新たなコスト構造改革

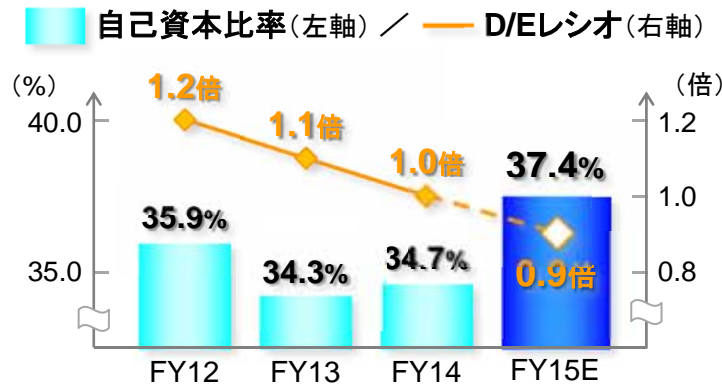
'12～13年度
経営戦略

1. 成長戦略の土台作り
2. 財務体質強化
3. グループ経営体制変革

'13～15年度
中期経営戦略

1. グループ経営体制の変革
2. マルチブランド戦略
3. コスト構造改革

健全化が進んだ財務体質



収益性の向上を追求するステージへ



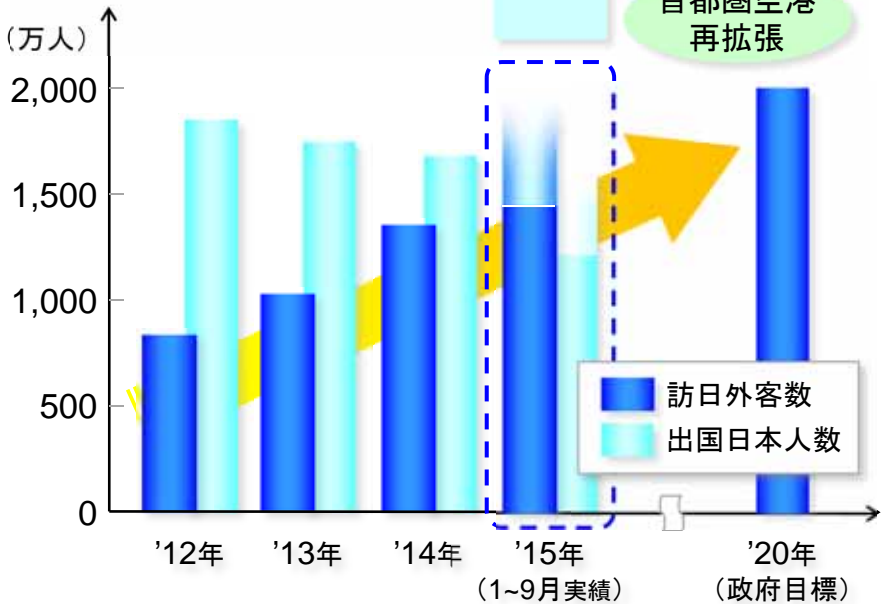
次期経営戦略に向けて

旺盛な訪日需要をグループのビジネスとして獲得、トップライン成長を加速

'16-20年度 次期経営戦略

**グループ全体で
訪日需要の取り込みを強化**

訪日外客数と 出国日本人数が逆転



追い風
オリンピック
パラリンピック
首都圏空港
再拡張

航空事業



ノンエア
事業

航空関連

旅行
商社

エアライン事業領域の拡大

- 海外マーケティング強化
 - ・ 訪日客・三国間需要の取り込み強化
 - ・ 海外における国内線航空券の販売拡大
 - ・ ビッグデータ活用による潜在顧客の獲得

- アジア地域への就航路線の拡大
 - ・ 訪日客の取り込み強化の加速
 - ・ イールドマネジメントによる収入の最大化

**新規事業の創造
既存事業の成長加速**

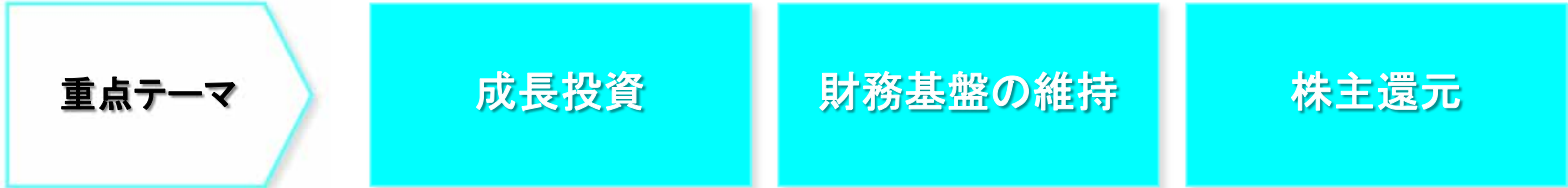
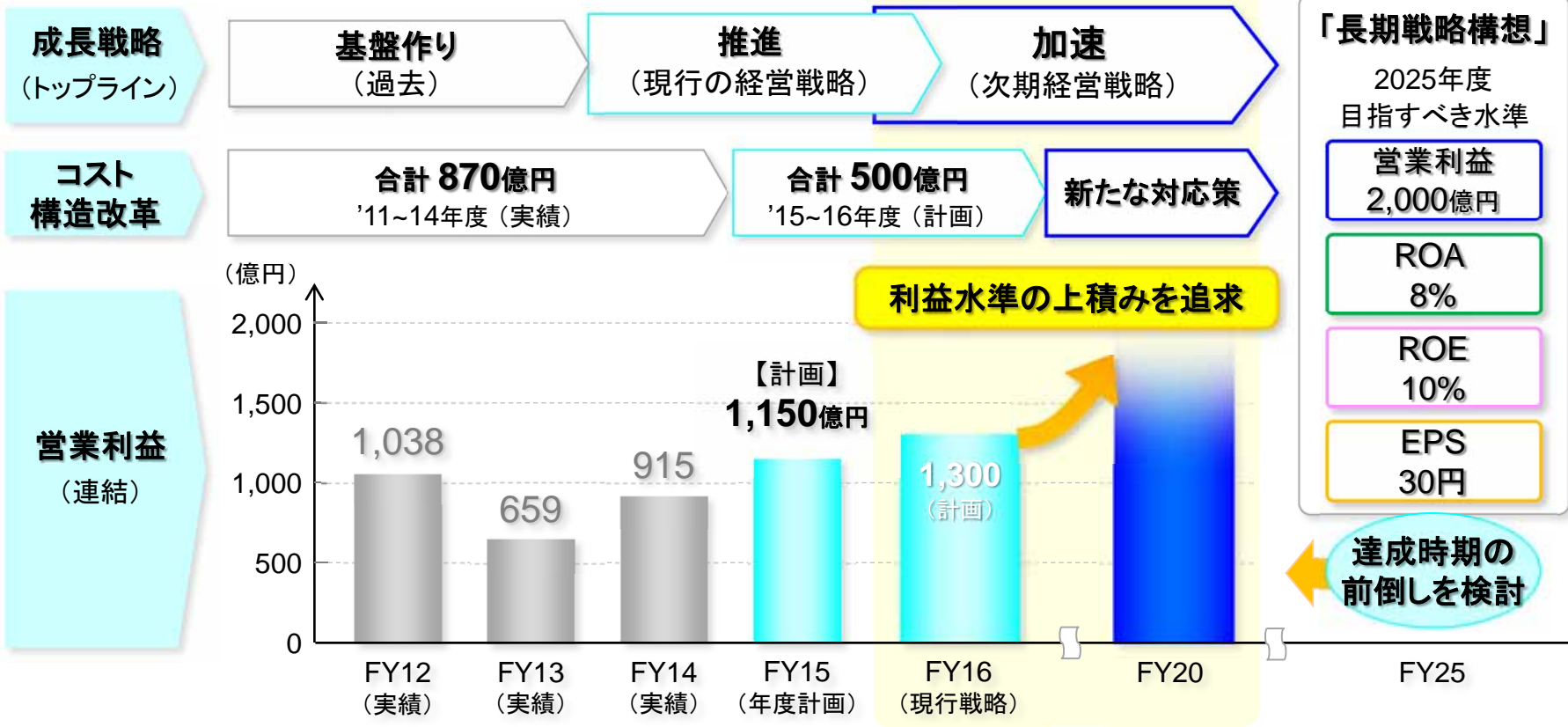
- 海外エアラインの受託ビジネス拡大
 - ・ 空港ハンドリング、ケータリング事業等

- 旺盛な消費需要の獲得
 - ・ 国内ツアー販売、免税品販売
- 越境Eコマースの推進
 - ・ 日本ブランド商品(農水産品等)の輸出

【出典】 日本政府観光局 (JNTO)

次期経営戦略に向けて

安定した財務基盤をベースに、収益性の向上を追求



Intentionally Blank

(MEMO)



(MEMO)



【第2部】

Ⅱ. 2015年度 第2四半期 決算(詳細)



業績ハイライト

当年度と前年度各四半期の業績比較

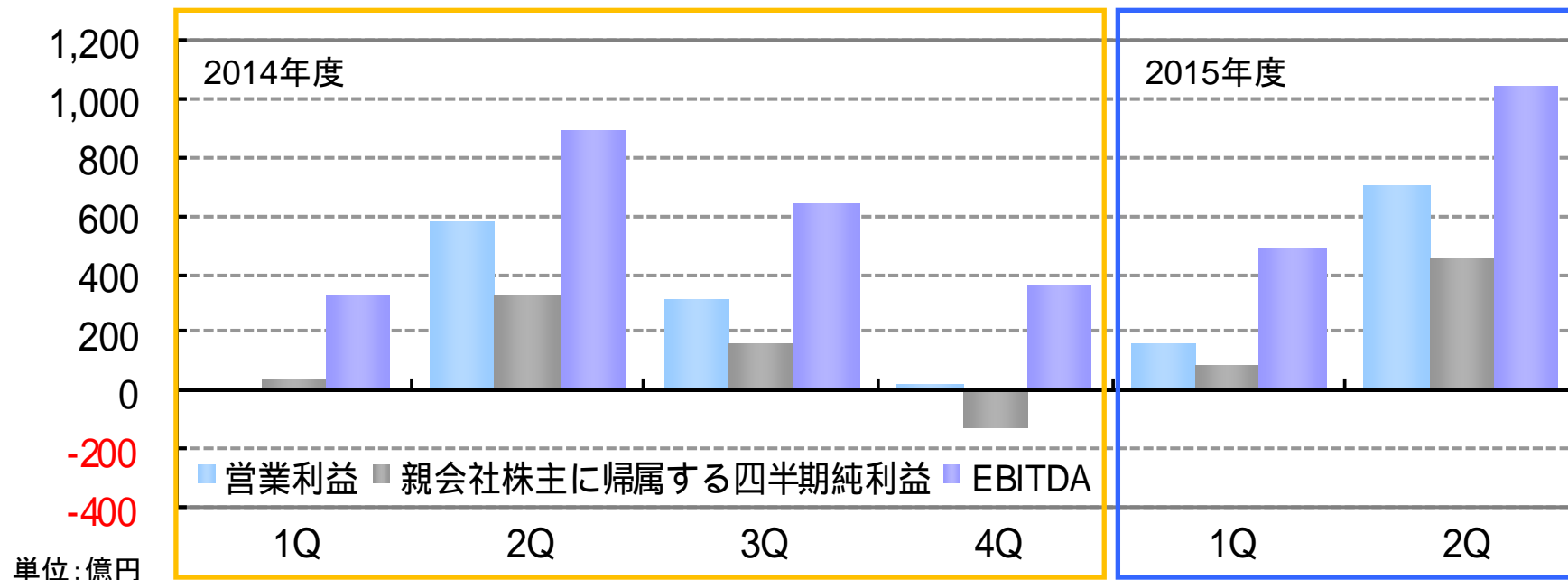
前年同期から大幅な増益を達成

【第2四半期累計(連結)】

- 営業利益 : 867億円 (前年同期比 + 288億円)
- 親会社株主に帰属する
四半期純利益 : 539億円 (同 + 182億円)
- EBITDA : 1,538億円 (同 + 311億円)

【第2四半期(7-9月期)(連結)】

- 営業利益 : 700億円
- 親会社株主に帰属する
四半期純利益 : 455億円
- EBITDA : 1,044億円



連結決算概要

経営成績

単位:億円

	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年差	FY2015 第2四半期	前年差
売上高	8,548	9,112	+ 564	4,973	+ 293
営業費用	7,968	8,244	+ 275	4,273	+ 169
営業利益	579	867	+ 288	700	+ 124
営業利益率(%)	6.8	9.5	+ 2.7	14.1	+ 1.8
営業外損益	△ 98	△ 38	+ 60	△ 30	+ 39
経常利益	480	829	+ 349	670	+ 164
特別損益	102	0	△ 102	0	△ 1
親会社株主に帰属する四半期純利益	357	539	+ 182	455	+ 133
当期純利益	362	541	+ 179	457	+ 132
その他包括利益	215	△ 224	△ 439	△ 432	△ 598
包括利益	577	317	△ 259	25	△ 465

連結決算概要

財政状態

単位:億円

	FY2014 期末	FY2015 第2四半期末	前年度 期末差
総資産	23,024	23,198	+ 174
自己資本	7,982	8,166	+ 183
自己資本比率(%)	34.7	35.2	+ 0.5
有利子負債残高	8,198	7,805	△ 393
D/Eレシオ(倍)*	1.0	1.0	△ 0.1
純有利子負債残高 **	4,972	4,072	△ 899

* オフバランスリース債務額 799億円(前年度期末 963億円)を含むD/Eレシオは1.1倍(前年度期末1.1倍)

** 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - (流動資産(現金及び預金 + 有価証券))

連結決算概要

キャッシュフロー	単位:億円		
	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	1,222	1,711	+ 489
投資キャッシュフロー	△ 1,562	△ 1,230	+ 332
財務キャッシュフロー	221	△ 564	△ 785
現金及び現金同等物の増減額	△ 117	△ 80	+ 36
現金及び現金同等物の期首残高	2,409	2,089	} △ 80
現金及び現金同等物の期末残高	2,307	2,008	
減価償却費	648	671	+ 22
設備投資額(固定資産のみ)	1,490	1,272	△ 218
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く)	△ 7	1,068	+ 1,076
EBITDA(営業利益+減価償却費)	1,227	1,538	+ 311
EBITDAマージン(%)	14.4	16.9	+ 2.5

連結決算概要

セグメント別実績

単位: 億円

		FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年差	FY2015 第2四半期	前年差
売上高	航空事業	7,422	7,880	+ 458	4,308	+ 238
	航空関連事業	1,089	1,144	+ 55	566	+ 13
	旅行事業	890	884	△ 5	521	△ 1
	商社事業	613	715	+ 102	363	+ 50
	報告セグメント計	10,015	10,626	+ 611	5,761	+ 300
	その他	155	161	+ 6	81	+ 1
	調整額	△ 1,622	△ 1,675	△ 53	△ 869	△ 9
	合計(連結)	8,548	9,112	+ 564	4,973	+ 293
営業利益	航空事業	518	811	+ 293	659	+ 128
	航空関連事業	52	42	△ 9	23	△ 1
	旅行事業	27	28	+ 0	22	+ 2
	商社事業	18	30	+ 12	16	+ 3
	報告セグメント計	617	913	+ 295	721	+ 133
	その他	7	6	△ 0	3	△ 2
	調整額	△ 45	△ 52	△ 6	△ 24	△ 6
	合計(連結)	579	867	+ 288	700	+ 124

航空事業

収入・費用

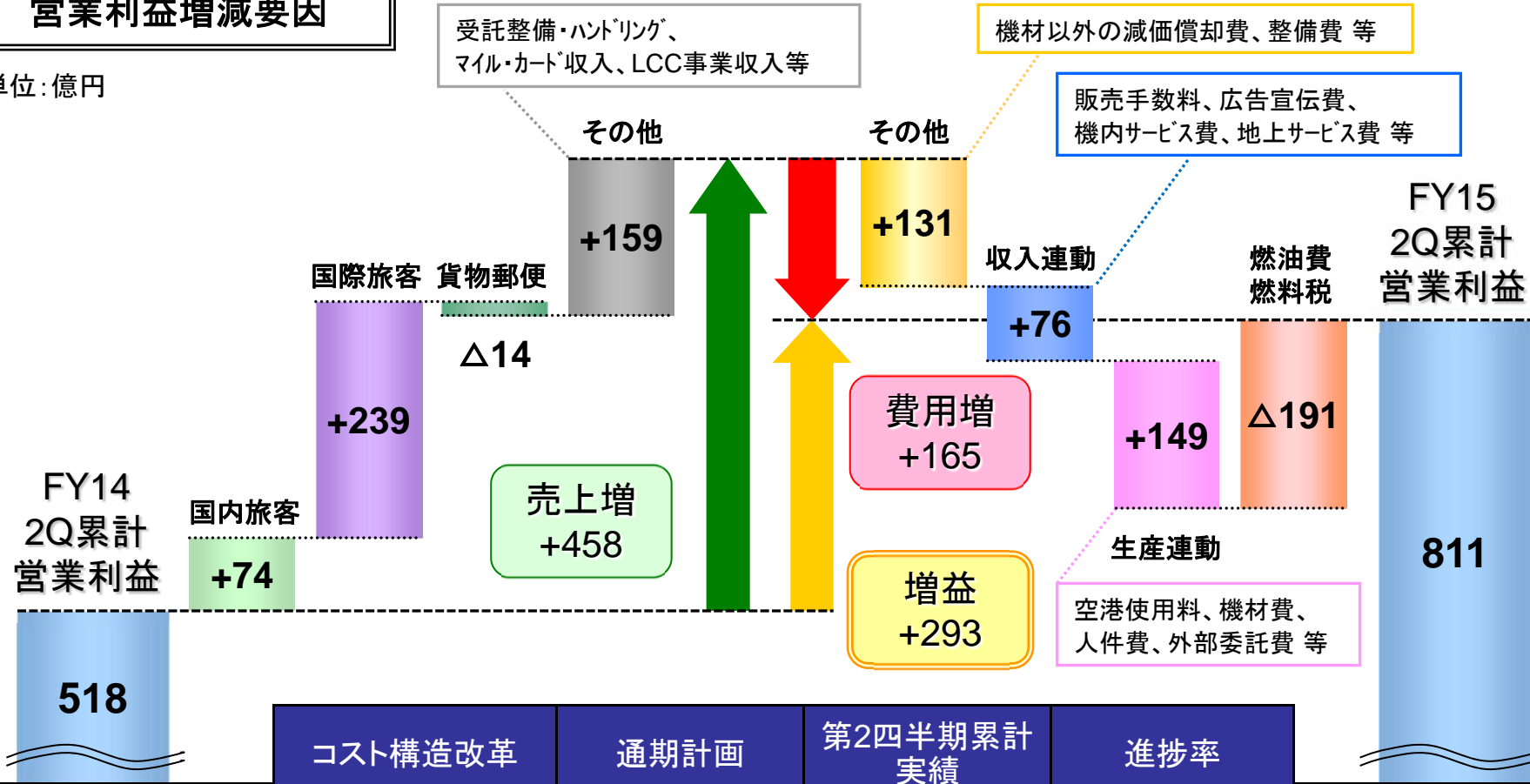
単位: 億円

		FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年差	FY2015 第2四半期	前年差
売上高	国内線旅客	3,458	3,532	+ 74	2,009	+ 34
	国際線旅客	2,357	2,596	+ 239	1,403	+ 138
	貨物郵便	803	789	△ 14	402	△ 9
	その他	801	961	+ 159	494	+ 75
	合計	7,422	7,880	+ 458	4,308	+ 238
営業費用	燃油費・燃料税	1,872	1,680	△ 191	881	△ 92
	空港使用料	573	585	+ 12	304	+ 9
	航空機材賃借費	446	462	+ 15	234	+ 8
	減価償却費	620	638	+ 17	327	+ 17
	整備部品・外注費	418	501	+ 83	268	+ 48
	人件費	824	871	+ 46	452	+ 43
	販売費	491	528	+ 36	262	+ 6
	外部委託費	846	916	+ 70	472	+ 36
	その他	809	883	+ 74	446	+ 31
	合計	6,903	7,068	+ 165	3,649	+ 109
営業利益	518	811	+ 293	659	+ 128	
EBITDA(営業利益+減価償却費)		1,139	1,450	+ 310	986	+ 146
EBITDAマージン(%)		15.4	18.4	+ 3.0	22.9	+ 2.3

航空事業

営業利益増減要因

単位: 億円



コスト構造改革	通期計画	第2四半期累計実績	進捗率
生産性向上	80	40	50%
営業改革	10	5	50%
業務改革等	160	75	47%
計	250	120	48%

航空事業

国内旅客事業(実績)	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年比(%)	FY2015 第2四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	30,647	30,307	△ 1.1	15,842	+ 0.2
旅客キロ(百万)	19,293	19,433	+ 0.7	10,581	+ 0.7
旅客数(千人)	21,675	21,551	△ 0.6	11,640	△ 0.6
座席利用率(%)	63.0	64.1	+ 1.2*	66.8	+ 0.3*
旅客収入(億円)	3,458	3,532	+ 2.1	2,009	+ 1.7
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	11.3	11.7	+ 3.3	12.7	+ 1.5
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	17.9	18.2	+ 1.4	19.0	+ 1.0
単価(円) (旅客収入/旅客数)	15,957	16,393	+ 2.7	17,261	+ 2.3

* 座席利用率のみ前年差

(バニラエア含まず)

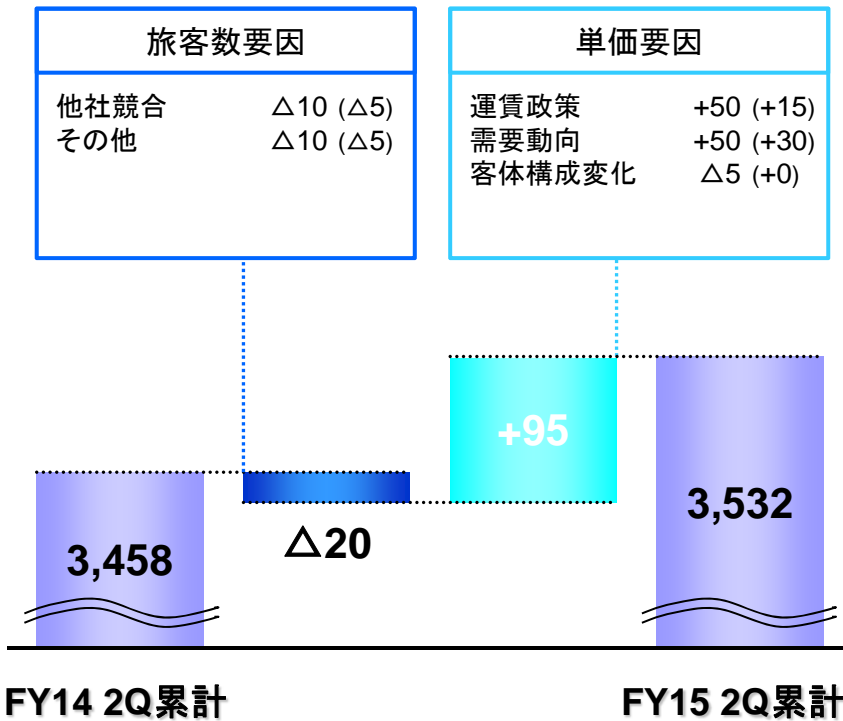
航空事業

国内旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

第2四半期累計 収入増減要因

✓ 需要動向を見極めた運賃政策により、増収を達成

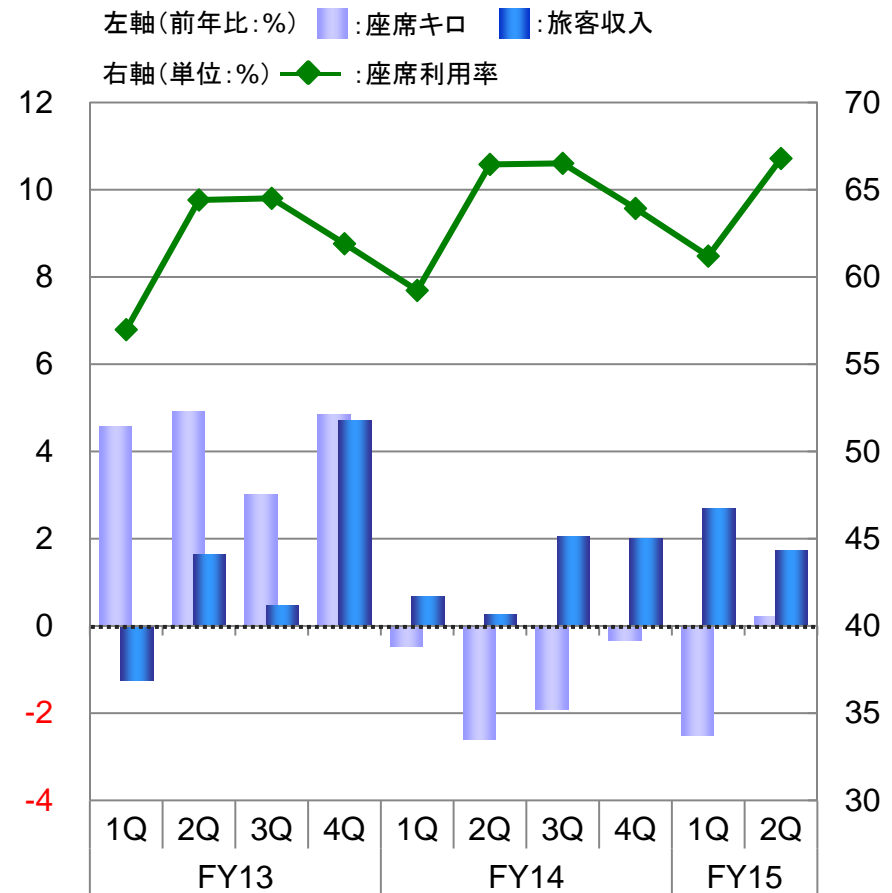


(カッコ内は第2四半期のみの実績値)

単位: 億円

四半期別 座席キロ・収入・座席利用率推移

✓ 需給適合が奏功し、座席利用率は着実に向上



航空事業

国際旅客事業(実績)	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年比(%)	FY2015 第2四半期	前年比(%)
座席キロ(百万)	24,718	26,333	+ 6.5	13,731	+ 10.3
旅客キロ(百万)	18,025	19,984	+ 10.9	10,790	+ 12.9
旅客数(千人)	3,591	4,062	+ 13.1	2,152	+ 13.2
座席利用率(%)	72.9	75.9	+ 3.0*	78.6	+ 1.8*
旅客収入(億円)	2,357	2,596	+ 10.1	1,403	+ 10.9
ユニットレベニュー(円) (旅客収入/座席キロ)	9.5	9.9	+ 3.4	10.2	+ 0.5
イールド(円) (旅客収入/旅客キロ)	13.1	13.0	△ 0.7	13.0	△ 1.8
単価(円) (旅客収入/旅客数)	65,656	63,920	△ 2.6	65,198	△ 2.0

* 座席利用率のみ前年差

(バニラエア含まず)

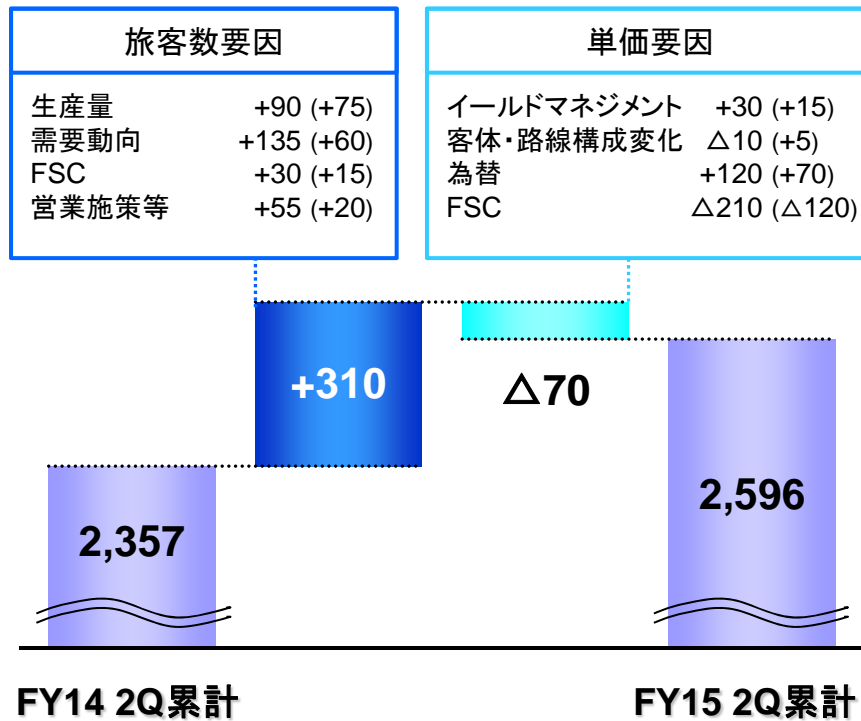
航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

第2四半期累計 収入増減要因

✓事業規模の拡大により、大幅な増収を実現



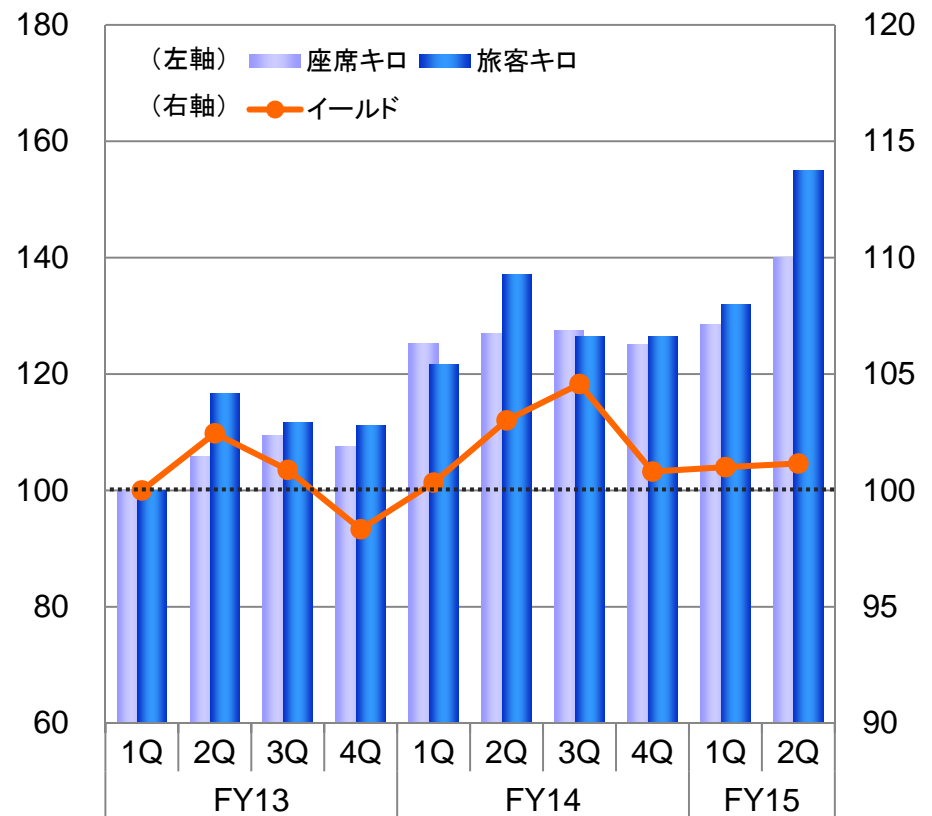
(カッコ内は第2四半期のみの実績値)

単位: 億円

四半期別 座席キロ・旅客キロ・イールド推移

✓国内・海外需要を幅広く着実に取り込む

指数: FY13 1Q=100



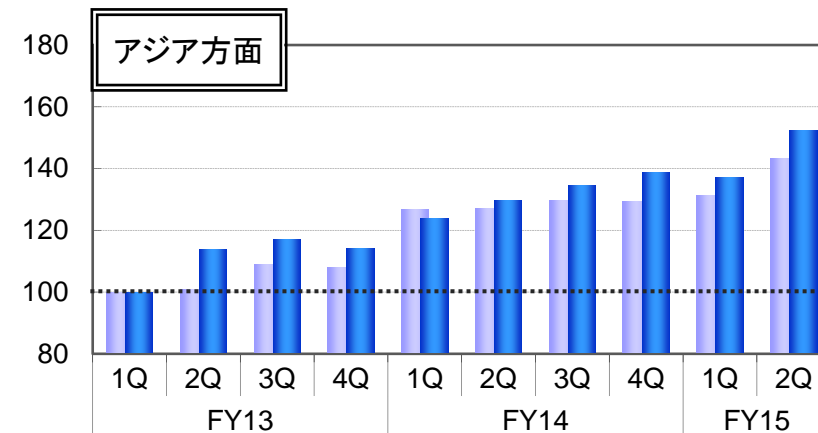
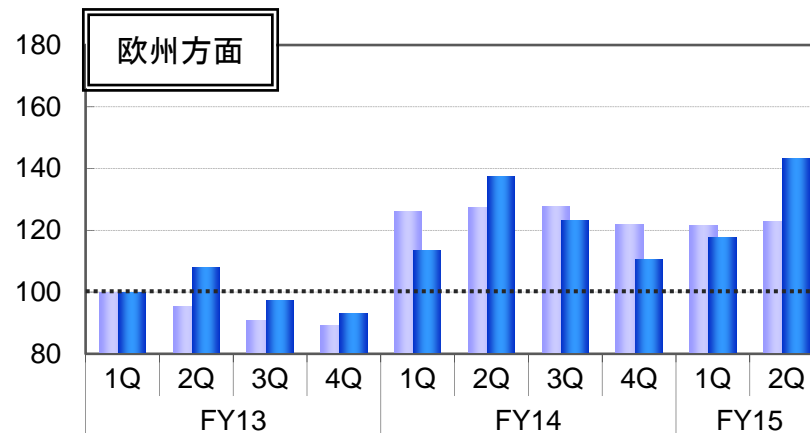
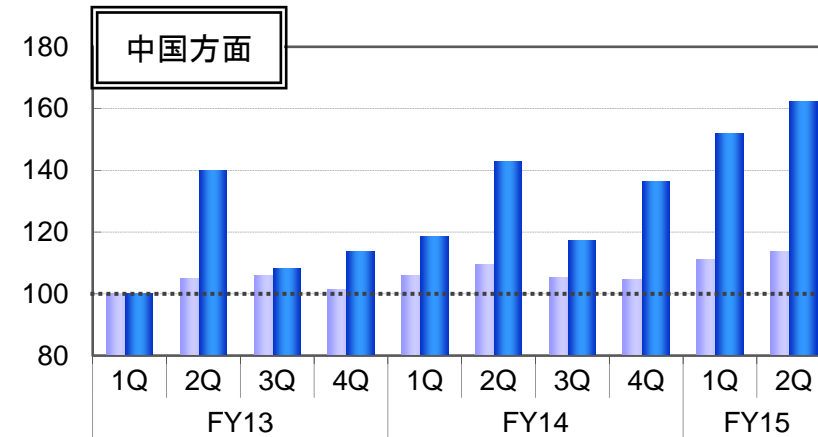
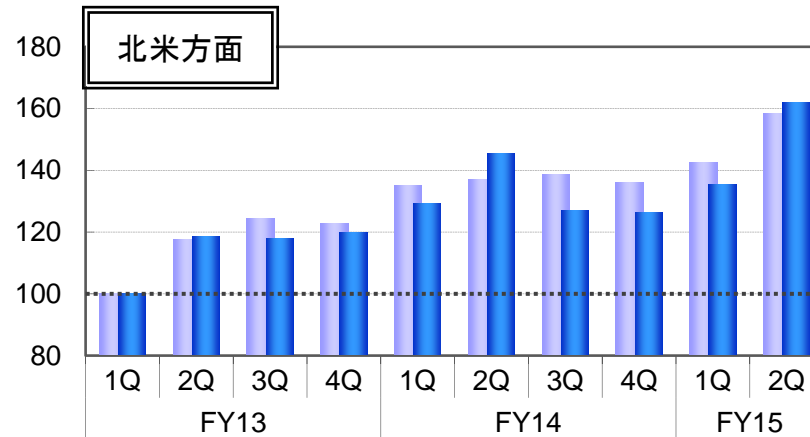
航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

四半期別 方面別 輸送実績推移

(指数 FY13 1Q=100) ■:座席キロ ■:旅客キロ

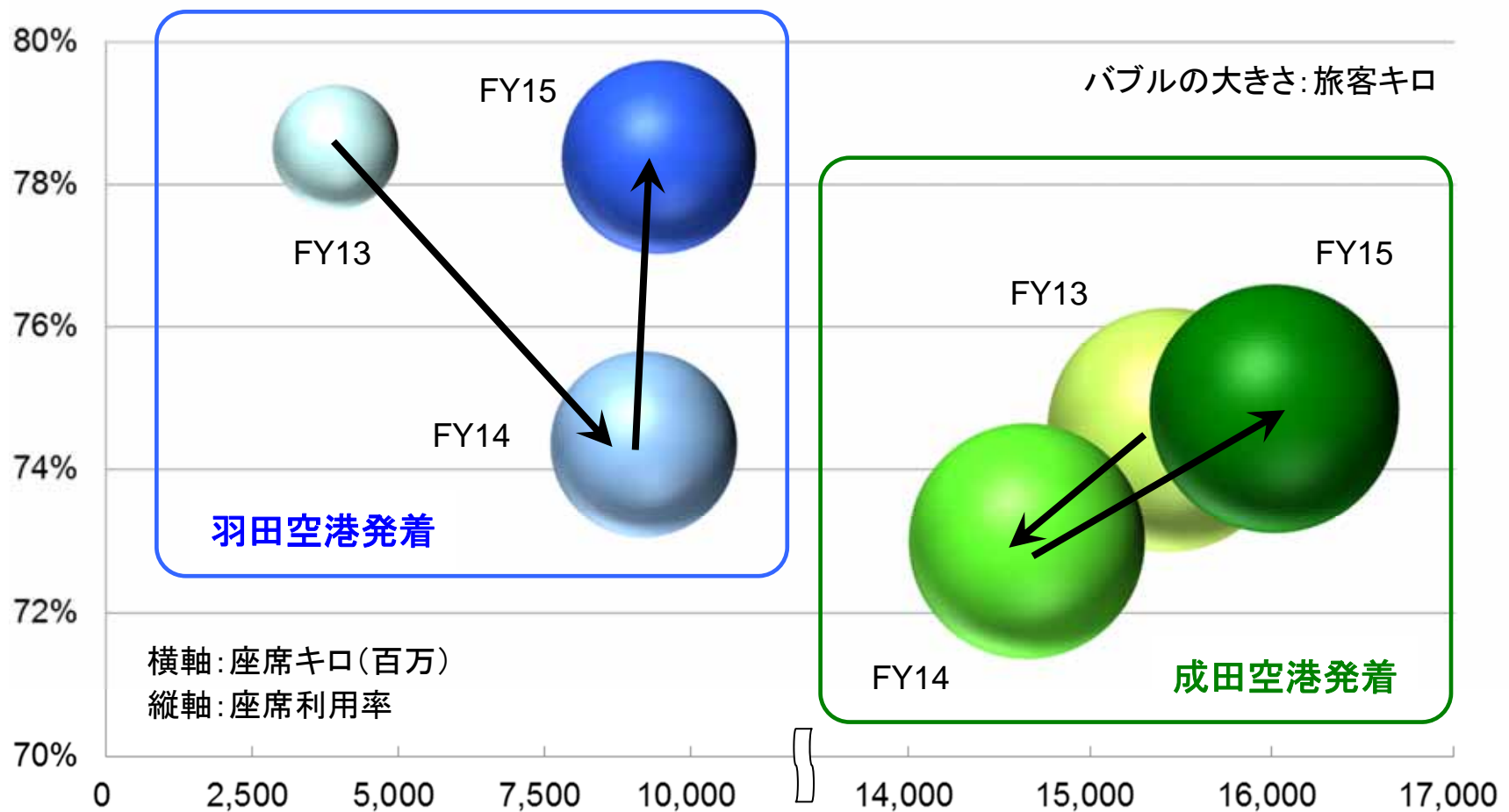


航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(バニラエア含まず)

デュアルハブネットワーク戦略の進捗 (第2四半期累計 首都圏空港別 輸送実績推移)



航空事業

国内貨物事業(実績)	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年比(%)	FY2015 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ(百万)	963	953	△ 1.0	512	+ 2.3
有償貨物トンキロ(百万)	236	230	△ 2.8	124	△ 0.7
貨物輸送重量(千トン)	236	228	△ 3.2	124	△ 1.5
貨物重量利用率(%)	24.6	24.1	△ 0.4*	24.2	△ 0.7*
貨物収入(億円)	161	155	△ 3.7	82	△ 2.2
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	16.8	16.3	△ 2.7	16.2	△ 4.3
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	68.2	67.5	△ 0.9	66.8	△ 1.4
重量単価(円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	68	68	△ 0.5	67	△ 0.6

*貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業(実績)	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年比(%)	FY2015 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ(百万)	2,742	2,957	+ 7.9	1,537	+ 10.0
有償貨物トンキロ(百万)	1,801	1,702	△ 5.5	873	△ 4.0
貨物輸送重量(千トン)	428	396	△ 7.5	204	△ 5.3
貨物重量利用率(%)	65.7	57.5	△ 8.2*	56.8	△ 8.2*
貨物収入(億円)	597	583	△ 2.4	294	△ 3.2
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	21.8	19.7	△ 9.5	19.2	△ 12.0
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	33.2	34.3	+ 3.3	33.7	+ 0.8
重量単価(円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	140	147	+ 5.5	144	+ 2.2

*貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

【参考】国際フライト(実績)

本表のデータは、P28記載実績の内数

	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年比(%)	FY2015 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ(百万)	618	625	+ 1.1	314	△ 2.5
有償貨物トンキロ(百万)	386	347	△ 10.1	177	△ 11.7
貨物輸送重量(千トン)	194	176	△ 9.3	90	△ 8.1
貨物重量利用率(%)	62.5	55.6	△ 6.9*	56.3	△ 5.9*
貨物収入(億円)	228	215	△ 5.8	110	△ 5.7
ユニットレベニュー(円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	36.9	34.4	△ 6.8	35.1	△ 3.3
イールド(円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	59.1	61.9	+ 4.8	62.3	+ 6.7
重量単価(円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	117	122	+ 3.9	122	+ 2.6

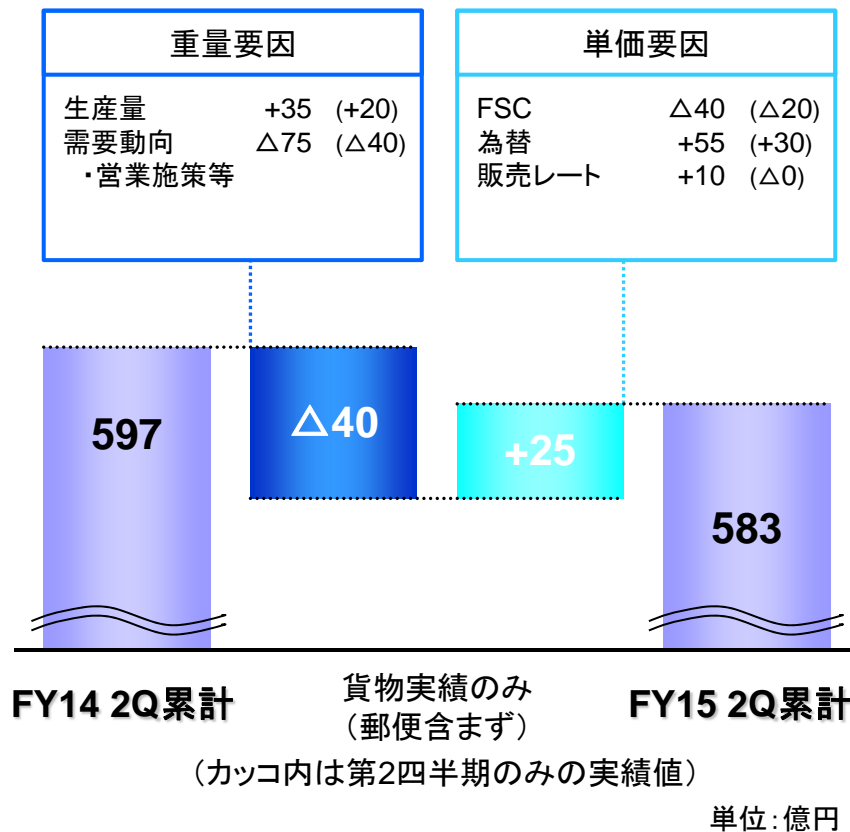
*貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業(事業動向)

第2四半期累計 収入増減要因

✓ 輸送重量が前年を下回り、収入は前年水準に及ばず

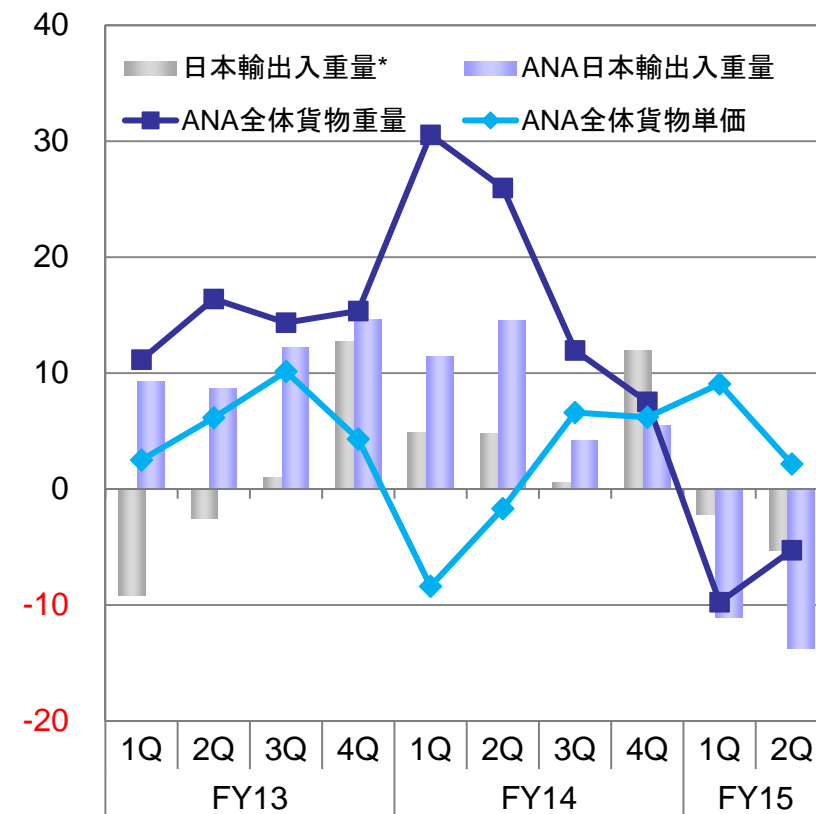


四半期別 輸送実績・単価推移

✓ 単価は向上するも、需要の取り込みに不足を残す

(前年比: %)

* Japan Aircargo Forwarders Association



航空事業

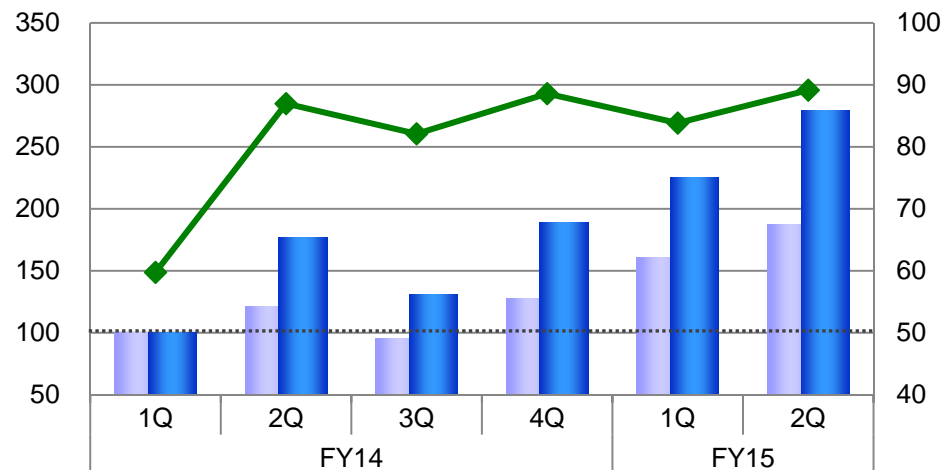
LCC事業(実績)	FY2014	FY2015	前年比(%)	FY2015	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
座席キロ(百万)	1,098	1,724	+ 57.0	927	+ 53.9
旅客キロ(百万)	820	1,495	+ 82.3	826	+ 57.8
旅客数(千人)	570	896	+ 57.2	503	+ 35.5
座席利用率(%)	74.7	86.7	+ 12.0*	89.1	+ 2.2*

国内線・国際線合計 * 座席利用率のみ前年差

運用航空機数	Airbus A320-200: 8機 (2015年度 第2四半期末 現在)
--------	---

→ 成田=高雄線を増便予定(2016/1/30~)

左軸(指数 FY14 1Q=100) ■:座席キロ ■:旅客キロ
右軸(単位:%) ◆:座席利用率



航空事業以外のセグメント

セグメント別実績

単位: 億円

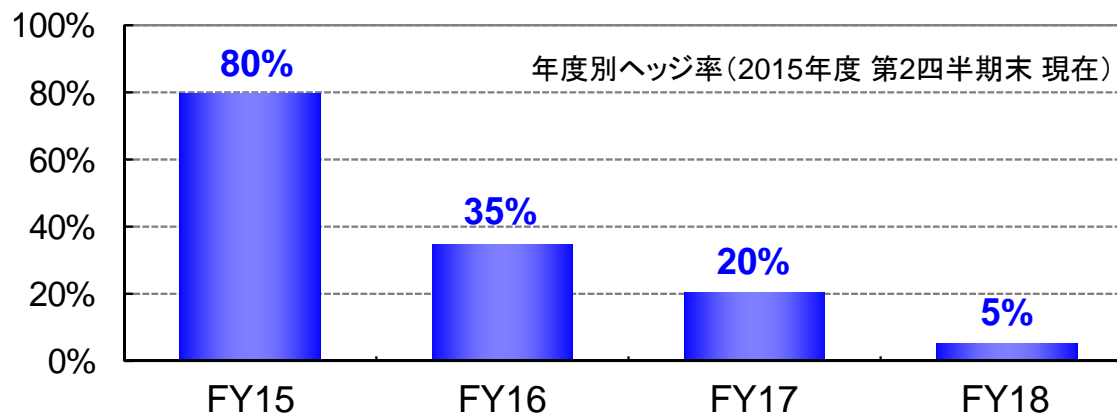
	航空関連事業			旅行事業		
	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年差	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年差
売上高	1,089	1,144	+ 55	890	884	△ 5
営業利益	52	42	△ 9	27	28	+ 0
減価償却費	22	26	+ 4	0	0	+ 0
EBITDA(営業利益+減価償却費)	74	69	△ 5	28	28	+ 0
EBITDAマージン(%)	6.9	6.1	△ 0.8	3.2	3.2	+ 0.1

	商社事業			その他		
	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年差	FY2014 第2四半期累計	FY2015 第2四半期累計	前年差
売上高	613	715	+ 102	155	161	+ 6
営業利益	18	30	+ 12	7	6	△ 0
減価償却費	4	4	+ 0	0	0	△ 0
EBITDA(営業利益+減価償却費)	22	35	+ 12	8	7	△ 0
EBITDAマージン(%)	3.7	4.9	+ 1.2	5.3	4.7	△ 0.6

燃油・為替ヘッジの進捗状況

燃油

2015年度	ドバイ原油(US\$/bbl)	シンガポールケロシン(US\$/bbl)
通期業績予想前提値	67	85
第2四半期累計実績	55.7	67.9

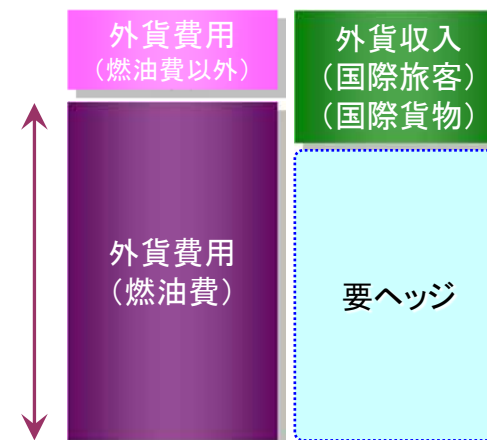
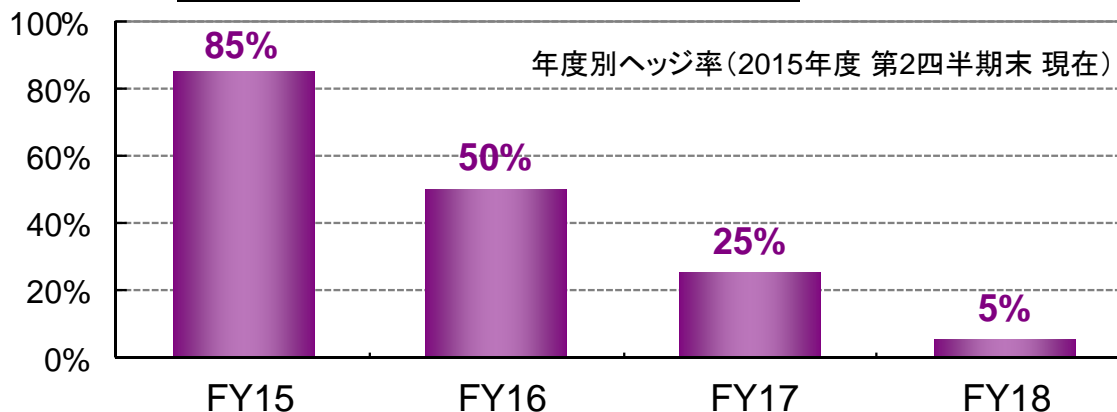


(下記感応度はヘッジ効果を含まず)



為替

2015年度	円/US\$
通期業績予想前提値	120
第2四半期累計実績	121.8



Intentionally Blank

補足資料



補足資料

運用航空機数	FY2014 期末	FY2015 第2四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Boeing 777-300ER	20	22	+ 2	16	6
Boeing 777-300	7	7	—	7	0
Boeing 777-200ER	12	12	—	6	6
Boeing 777-200	16	16	—	14	2
Boeing 787-9	2	8	+ 6	8	0
Boeing 787-8	32	34	+ 2	31	3
Boeing 767-300ER	26	25	△ 1	11	14
Boeing 767-300	16	16	—	16	0
Boeing 767-300F	3	3	—	0	3
Boeing 767-300BCF	7	8	+ 1	8	0
Airbus A320-200	20	20	—	12	8
Boeing 737-800	31	31	—	24	7
Boeing 737-700ER	2	2	—	2	0
Boeing 737-700	10	9	△ 1	6	3
Boeing 737-500	17	18	+ 1	18	0
Bombardier DHC-8-400 (Q400)	21	21	—	17	4
合計 Total	242	252	+ 10	196	56

©ANAHD2015 バニラエア運用 A320-200 を含む(当第2四半期末 8機、前年度期末 8機)
 グループ外にリースしている機数を除く(当第2四半期末 14機、前年度期末 12機)

補足資料

国際旅客 方面別実績(構成比)		FY2015 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2015 第2四半期 構成比	前年差
旅客収入	北米	32.5	△ 0.7	32.8	△ 0.3
	欧州	19.6	△ 1.9	19.7	△ 2.5
	中国	16.7	+ 2.0	16.4	+ 1.5
	アジア	27.0	+ 0.4	26.1	+ 0.6
	リゾート	4.2	+ 0.3	5.0	+ 0.7
座席キロ	北米	36.3	+ 1.3	36.6	+ 1.6
	欧州	18.5	△ 2.0	17.8	△ 2.6
	中国	11.1	△ 0.2	10.8	△ 0.7
	アジア	29.7	+ 0.4	29.7	+ 0.6
	リゾート	4.5	+ 0.5	5.1	+ 1.0
旅客キロ	北米	35.8	△ 0.9	36.1	△ 0.5
	欧州	18.7	△ 1.2	19.0	△ 1.6
	中国	10.9	+ 0.8	10.4	+ 0.1
	アジア	29.5	+ 0.9	28.8	+ 1.2
	リゾート	5.1	+ 0.4	5.7	+ 0.9

補足資料

国際貨物 方面別実績(構成比)		FY2015 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2015 第2四半期 構成比	前年差
貨物収入	北米	24.2	+ 2.5	22.7	+ 0.5
	欧州	13.6	△ 1.0	13.7	△ 0.5
	中国	34.3	△ 0.1	36.1	+ 1.7
	アジア	21.9	△ 0.4	21.7	△ 1.0
	その他	5.9	△ 1.0	5.9	△ 0.7
有効貨物 トンキロ	北米	37.1	+ 2.1	38.4	+ 3.5
	欧州	18.1	△ 2.7	17.2	△ 3.3
	中国	16.8	+ 0.5	16.4	+ 0.2
	アジア	24.0	△ 0.1	24.1	△ 0.6
	その他	4.1	+ 0.3	3.9	+ 0.3
有償貨物 トンキロ	北米	39.1	+ 0.7	38.7	+ 0.5
	欧州	22.5	△ 0.7	22.3	△ 0.4
	中国	13.0	△ 0.7	13.5	△ 0.3
	アジア	21.1	+ 0.5	21.3	△ 0.3
	その他	4.2	+ 0.2	4.3	+ 0.5

ANAグループが目指すもの

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に
世界をつなぐ心の翼で
夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます
私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、
お客様満足と価値創造で
世界のリーディングエアライングループを目指します

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

Thank you.

当資料はホームページでもご覧いただけます。

This material is available on our website.

<http://www.anahd.co.jp>

[日本語] 株主・投資家情報 → IR資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス株式会社 財務企画・IR部

電話番号 03(6735)1030(代) メールアドレス ir@anahd.co.jp